

【宮崎県】土地改良を契機とした農村地域の振興事例集

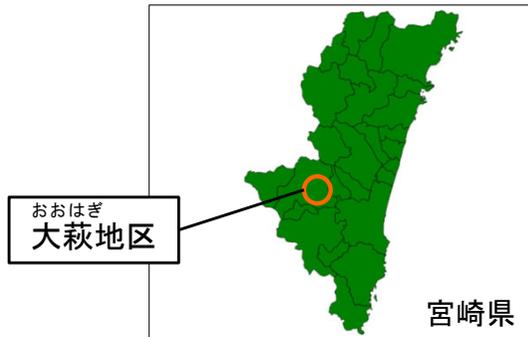
市町村	地区名等	タイトル	頁	発行月	Vol.
小林市	大萩	畑地かんがいによる日本一の「加工用ほうれんそう」の産地形成	1	H29.08	3
都城市	沖水	集落営農の法人化で地域農業をもっと元気に	2	H30.03	4
西臼杵郡高千穂町	向山	棚田の再生による地域活性化	3	H31.03	5
宮崎市	七野・八重	基盤整備を契機とした若手農家等への世代交代と地域活性化	4	R3.03	7
小林市	大萩	畑地かんがい施設整備を契機とした高収益作物の作付拡大	5	R4.03	8
延岡市	須美江	簡易な基盤整備での耕作条件の改善による高収益作物への転換	6	R4.03	8
宮崎市	大迫池	防災重点農業用ため池の整備による下流被害の防止	7	R6.03	10
国富町	嵐田	排水機場の整備による淡水被害の未然防止	8	R7.03	11

【工夫のポイント】

- 畑地かんがい用水を利用し、**輪作体系確立に向けた取組を開始**。さらに、省力化機材を導入することで、かん水労力の軽減を図っている。
- **ICTの活用によって出荷時期を平準化し、加工施設での廃棄ロスのリスクを軽減**。
- 農業法人等の**担い手を中心とした農地集積の推進**。

【取組地域の概要】

○位置 こぼやし
宮崎県小林市



○主要作物

- ・ほうれんそう、さといも等

○主な支援施策

- ・国営かんがい排水事業(H8～)
- ・県営畑地帯総合整備事業(H19～)
- ・多面的機能支払制度(H19～)
- ・農地中間管理事業(H27～)

畑地かんがい施設整備による営農の効率化

畑地かんがい施設を整備し、**安定的な用水供給が可能**になるとともに、自動散水タイマーやレインセンサーなどの**省力化機材を導入**することで**営農労力が軽減**。



※大萩地区は、国営かんがいモデル地区としてH21.10から暫定水源により順次配水



基盤整備
(H8年～)

【整備前】

区画整理等はされていたものの、**畑地かんがい施設が整備されていないため、たびたび干ばつ被害が発生**しており、**安定的なかんがい用水確保が求められていた**。



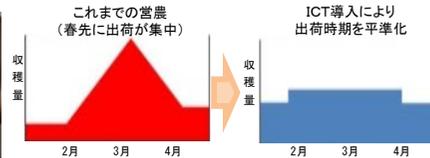
輪作体系の確立とICTを活用した計画的出荷

【輪作体系の例】

- 1年目(さといも)
- 2年目(緑肥、だいこん)
- 3年目(こぼう、**ほうれんそう**)
- 4年目(**ほうれんそう**、にんじん)
- 5年目(さといも)

○ 連作障害の回避や作業効率の向上を目指して、畑地かんがいによる自由な水利用の下での最適な輪作体系を検証。

○ 各ほ場の播種日、気象状況、管理状況、生育状況をタブレット等に入力し、コンピュータ上で栽培管理を行うことで収穫日をコントロール。ほうれんそうなどの加工・業務用野菜を加工施設へ計画的に出荷。



生産現場

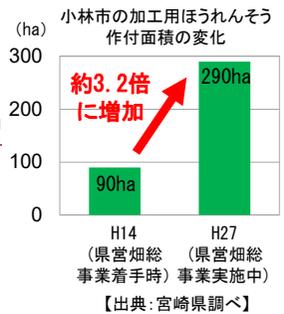
農業法人の参入と担い手への農地集積

○ 畑地かんがい営農導入を契機に、**2農業法人の設立**されたほか、**地区外からも2法人が参入**し、地域の農業を牽引。**農地集積率が飛躍的に上昇**。



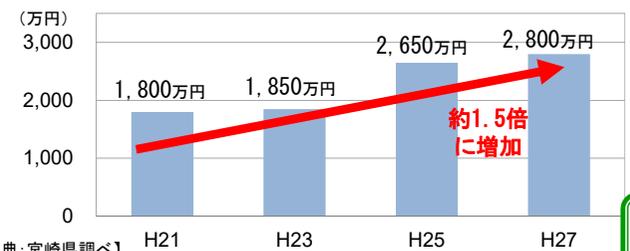
加工用ほうれんそうの作付面積を拡大し、日本一の産地形成に寄与

○ 大萩地区を含む小林市では、畑地かんがい事業実施を契機に「**加工用ほうれんそう**」の作付面積が飛躍的に増加し、日本一の産地形成※に寄与している。また、大萩地区では、**ほうれんそうの生産による農業所得が通水開始後約1.5倍に増加**している。



※ 宮崎県は「加工用ほうれんそう」の日本一の産地であり、小林市は県最大の産地となっている。また、大萩地区では地区内農地の約4割で「加工用ほうれんそう」を作付。

大萩地区の加工用ほうれんそうによる農業所得の推移(推計値)



【工夫のポイント】

- 農地の大区画化などの基盤整備を契機に、**地域の担い手となる法人を複数設立し、農地集積・集約化を推進**。
- 地域の畜産業と連携した環境保全型農業に取り組むほか、**女性の「技」を生かした加工品の製造販売等**にも取り組み、農業への参加意欲や所得の向上を実現。

基盤

区画整理により安定的な農業経営を実現

- 区画整理(標準区画30a程度)や農道の整備により、大型農業機械を導入した効率的な営農が可能となったほか、**担い手の経営規模が拡大**。(担い手平均経営面積は0.2haから4.6haへ拡大)



基盤整備

(S54年～H27年)



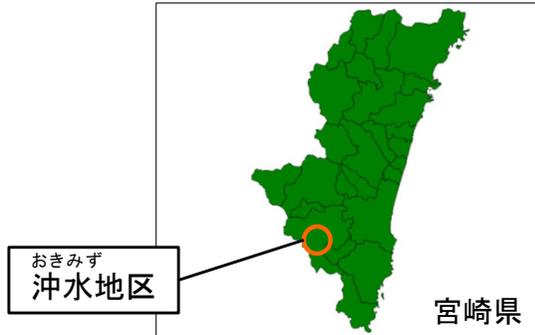
【整備前】

不整形かつ狭小なほ場であり、農道も未整備のため、**大型農業機械の導入が困難**。用排水路も未整備のため**安定した用水確保が困難**で、**不安定な農業経営が続いて**いた。



【取組地域の概要】

- 位置 みやこのじょうし
宮崎県都城市



- 主要作物
・水稲、大豆、ばれいしょ、ほうれん草等

- 主な支援施策
・県営かんがい排水事業(S54～H8)
・県営排水対策特別事業(S55～S60)
・県営経営体育成基盤整備事業(S55～H27)
・公団営農用地総合整備事業(H8～H15)

生産現場

耕畜連携による環境保全型農業の実践

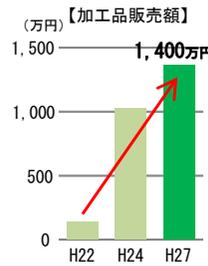
- 稲わらの供給や畜産業との連携による家畜ふん尿の堆肥化などに取り組み、**土づくりや環境保全型農業を実践**。畜産を主体とする担い手育成にもつながっている。



加工・流通

農産物加工による6次産業化への取組

- 女性が中心の生活部を法人内に設置し、さつまいもを使用した**地元の郷土料理「がね」**など農産物加工販売に着手。
- 平成24年度からは、**JAの直売所**を活用して売上げを伸ばし、**販売額は5年間で約10倍**に成長。



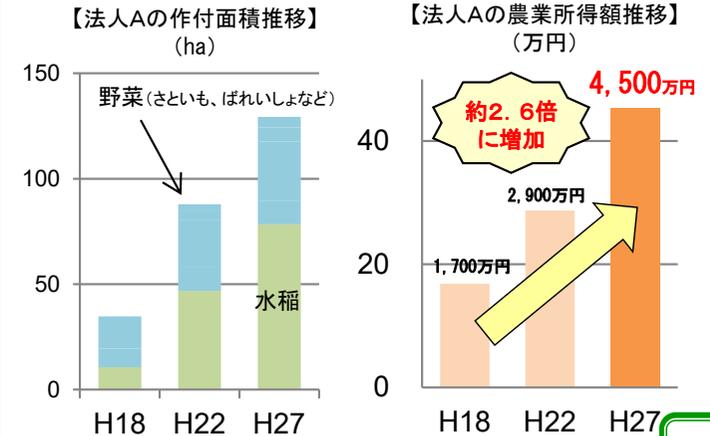
担い手

農業法人設立による地区内農地の集積

- 農家の高齢化が進む中、基盤整備を契機に、**3つの法人を設立**。地区内の**農地の約6割(493ha)**を**経営**。

経営規模拡大や高収益作物の導入を通じた法人の販売額・所得の増加

- 基盤整備を契機とした経営面積の拡大や加工・業務用向けの高収益作物の導入を推進。さらに農産物加工にも取り組むことで、平成26年度には販売額が2億円を超え、**法人の農業所得額も設立時より約2.6倍**に増加。



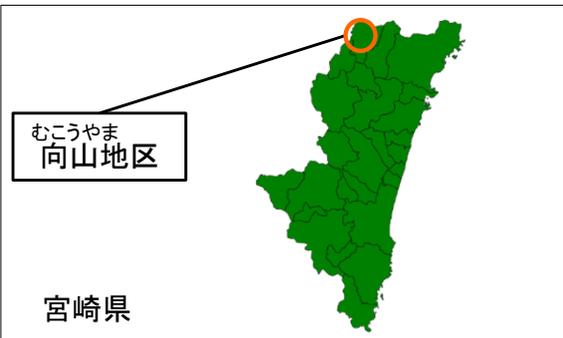
【出典：宮崎県農村計画課推計値】

【工夫のポイント】

- 棚田まで農業用水を供給する用水路の老朽化により、漏水等が度々発生し、安定的な用水供給が困難となり、棚田が荒廃。
- 用水路の改修により、安定的な用水供給が可能となり、棚田が再生。
- 棚田を中心とした観光戦略を地元住民で話し合い、都市農村交流を積極的に展開することで、地域活性化を実現。

【取組地域の概要】

- **位置** にしうすきぐん たかちほちょう
宮崎県西臼杵郡高千穂町



- **主要作物**
・水稲、茶、イチゴ等
- **主な支援施策**
・県営中山間地域総合農地防災事業 (H17~H27)
・県営用排水施設等整備事業 (H27~)

基盤

安定的な用水供給の確保

- 用水路を整備することで、漏水や土砂堆積が解消され、安定的な用水供給が可能に。
- 維持管理作業の負担が軽減され、持続的な農業生産に寄与。



用水路(整備後)

基盤整備

(H24年~H26年)

【整備前】

- 棚田まで供給する用水路は、老朽化により漏水が度々発生。
- 用水路内の土砂堆積による通水阻害から、水が安定的に届き渡らず、荒廃した農地が増加。



生産現場

棚田の再生と観光資源の活用

- 棚田の末端まで水が行き渡り、安定的な営農を実現。
- 美しい景観を保全することで、棚田を観光資源として活用。



世界農業遺産に登録された棚田

地域の取組

協議会設立による地域の活性化

- 過疎化への危機感から、ムラおこしのために地域住民と若者で協議会を設立。
- 地元産にこだわった6次産業化を展開し、地域資源を活用した新たな付加価値を創出。



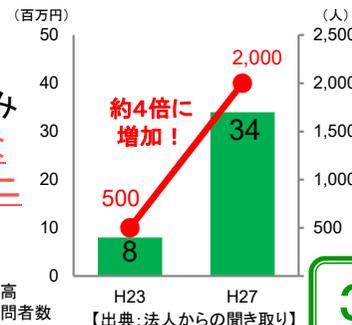
【高千穂ムラたび協議会】
民宿や酒造、ムラたび農園を展開し、このムラ(集落)でしかできない仕事を生み出すことで地域活性化に繋がっています。

都市と農山漁村の共生

- 棚田の農業景観や神話等を活かしたエコミュージアムを展開し、農泊等の訪問者数が500人から2,000人と増加。
- 棚田で作ったお米をどぶろくや甘酒に加工・販売することで、収益が8百万円から34百万円へ増加。
- 自然や歴史、食、伝統文化を複合的に組み合わせ、農村に新たな価値を創造するコミュニティビジネスを創出。



<A社の収益高と訪問者数の推移>



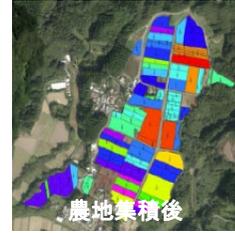
【工夫のポイント】

- 基盤整備の実施により、若手農家を中心とした**担い手に農地を集積**。
- 冬の風物詩「**大根やぐら**」をシンボルとした**農村振興、地域の活性化**。
- 若い新規就農者を「**新たな担い手**」として呼び込み、小学校の**児童数が増加**。

基盤

安定した営農の実現や担い手へ集積

- 大型機械や散水器具を導入し**安定した営農の実現**。
- 若手担い手農家に**農地を集積**。



基盤整備

(S58年～H24年)

【整備前】

- **小規模で不正形な農地と狭小な農道**。
- 天水に依存した**不安定な営農**。



【取組地域の概要】

- 位置 みやざきし
宮崎県宮崎市

宮崎県

しちの はえ
七野・八重地区



- 主要作物
・だいこん、きゅうり、さといも 等

- 主な支援施策
・県営特殊農地保全整備事業 (S58～H10)
・県営畑地帯総合整備事業 (H7～H24)
・多面的機能支払交付金 (H19～)

担い手

トレーニングハウスによる施設園芸の展開

- JA宮崎中央において、新規就農者のトレーニングハウスが導入され、**将来の担い手となる**きゅうりやトマト農家を育成。
- ブランド化の取り組みとして「**宮崎ワンタッチきゅうり**」※を生産。
※ハウス内できゅうりを箱詰め出荷する際、触れるのが収穫時の1回のみ。



日本農業遺産を目標にした地域おこし

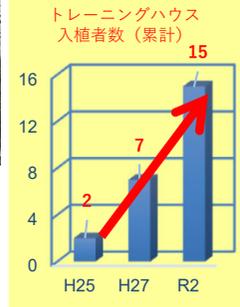
- 本地域の『**宮崎の太陽と風が育む「干し野菜」と露地野菜の高度利用システム**』が令和2年度日本農業遺産に認定。
- 若手担い手を中心に**農業体験や講演会、イベントを開催**し、農業振興に取り組む。



新規就農者の増加と経営の自立

- きゅうり、トマト就農者が増加。**(就農システムの確立)**

トレーニングハウスが16棟あり**15名**が農業経営を行っている(令和2年度時点)



- ・「JA出資型法人による農業研修」で1年間研修
- ・七野地区トレーニングハウスでの栽培実践(最大3年間)
- ・自前のハウスで**自立営農**(最終目標)

若手担い手農家及び児童の増加

- 町外からの**新規就農者やUターン者**の増加に伴い、**地域の児童数も約2割増加**。



【対策のポイント】

- 畑地かんがい施設整備により安定した用水供給が可能となり、**高収益作物の生産が拡大**。
- 耕作条件の改善に伴い、農業法人等の担い手への**農地集積が加速化**。

【取組地域の概要】

○ 位置 こばやし
宮崎県小林市



- 事業名
畑地帯総合整備事業(H19~H29)
- 主要作物
ほうれんそう、ごぼう
- 受益面積 131.0ha
- 主要工事
畑地かんがい:131ha、農地保全:390m

畑地かんがい施設の整備

- 畑地かんがい施設が未整備で、**天水に頼った作付体系のため、計画的な営農が困難**。
- 畑地かんがい施設の整備により、安定した水利用が可能になり、**計画的な営農を展開**。
- 自動散水システムの導入により、**営農労力を軽減**。

基盤

整備前



基盤整備
(H19~H29)

整備後



高収益作物の導入や生産拡大に向けて

- 畑地かんがいによる水利用の拡大を図るため、**実証展示ほ場の設置**や**畑かんマイスターによる栽培実証を実施**。



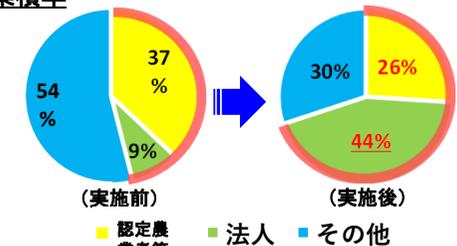
畑かんマイスターとは
畑かん水を活用した営農に先駆的に取り組まれている農業者(畑かん営農の達人)

地域の取組

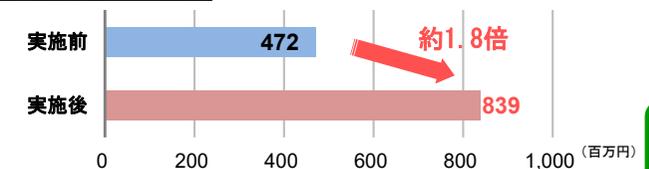
高収益作物の作付面積拡大と集積率の増加

- 高収益作物の作付面積の割合は、**約8割に増加(+25%)**、同生産額は**約1.8倍**。
- 法人等担い手への農地集積率は、**70%に増加(+25%)**。

担い手への集積率



高収益作物の生産額



【対策のポイント】

- 基盤整備の実施により、**農作業の省力化及び鳥獣被害防止**を行い、担い手を確保する。
- 水田中心の営農から**高収益作物であるキャベツに営農転換**を行う。
- 地区の全体受益に農地中間管理権を設定し、**担い手への農地集積**を図る。

【取組地域の概要】

○位置 のべおかし
宮崎県延岡市



- 事業名
農地耕作条件改善事業 (R2~R4)
- 主要作物
水稻、キャベツ
- 受益面積 2.97ha
- 主要工事
区画整理 A=1.76ha
農作物被害防止施設 L=1.8km
(鳥獣害侵入防止柵)
高収益作物支援 1式

基盤

農地の大区画化を実施



着手前

基盤整備



大区画化された農地

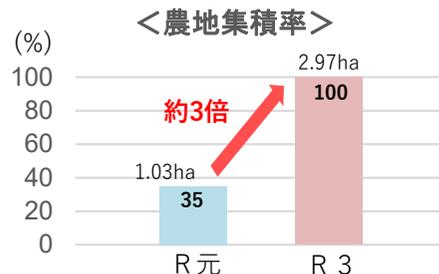


整備された鳥獣害侵入防止柵

- **農地の大区画化**による農作業の省力化や鳥獣被害がなくなり、新たな農業法人が参入。

農地の集積率が大幅に増加

- 基盤整備を契機に**担い手への農地集積率が大幅に向上**(地区の面積全てを担い手に集積)



集積・集約

高収益作物への転換

- 事業着手前にキャベツの試験栽培を行い、生育を確認。
- **法人参入により、契約栽培によるキャベツの産地化が進展**。
- 直播栽培等、さらなる省力化を検討中。

対策の効果



キャベツ試験栽培の様子



鉄コンテナによる出荷

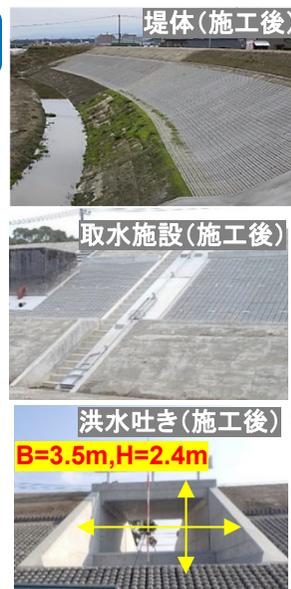
【対策のポイント】

- 大迫池は下流に農地や住宅があり、災害時に緊急輸送道路となる県道等に隣接。**洪水吐きの断面不足や堤体の漏水が確認され、堤体決壊により甚大な被害が発生するおそれ。**
- このため、**堤体の補強や洪水吐きの流下能力向上など、ため池を全面的に整備。**
- **整備により災害を未然に防止し、地域住民の安全・安心な暮らしを確保。**

基盤

ため池の補強・改修工事

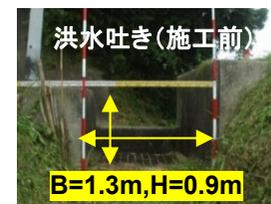
- **洪水吐きの断面を拡張するとともに、堤体の断面補強、漏水対策、浸食防止を実施。**
- **併せて、取水施設の更新整備も実施。**



ため池の補強・改修工事

【整備前】

大迫池は**洪水吐きの断面が狭小であり、堤体からは漏水も発生。**さらに、取水施設も老朽化。



全景写真(整備前)



【取組地域の概要】

- 位置 みやざきし
宮崎県宮崎市

宮崎県



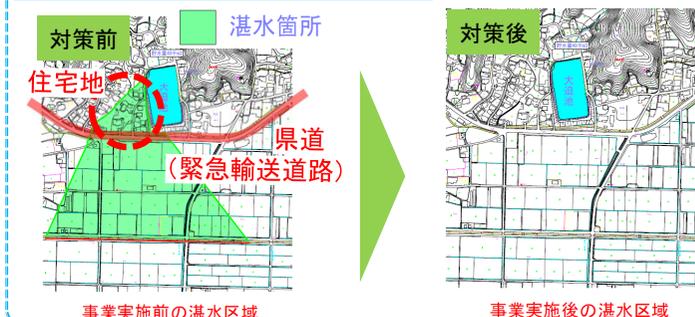
○ 実施事業

- ・ 農村地域防災減災事業 (H29～R5)
- うち5か年加速化対策 (R3～R5)

堤体の決壊を防止し、下流の被害を回避

- 従前では、堤体決壊により周辺地域に被害を及ぼすおそれがあったが、対策により、**堤体決壊リスクを軽減。**

湛水シミュレーション図(1/10確率)



対策の効果

	想定被害額	想定住宅被害
対策なし (堤体が決壊した場合)	4.4億円	11戸 (床上浸水)
対策あり	被害なし	被害なし

- **下流にある農地、住宅、県道(緊急輸送道路)等への災害を未然に防止し、地域住民の安全・安心な暮らしを確保。**

全景写真(整備後)



- 堤体や洪水吐きなどの工事が完了していたため、**令和4年9月台風14号においても被害は無し。**

【工夫のポイント】

- 地区内の流域開発、近年の降雨の激甚化により流出量が増加したことで、**自然排水が困難となり、農地や住宅等に湛水被害が発生。**
- 嵐田排水機場を新設し、洪水時の**強制排水を可能に。**
- 令和6年8月の台風10号においても**湛水被害を防止し、緊急時の機能も確保。**

【取組地域の概要】

- 位置 ひがししろかた くにとみ
宮崎県東諸県郡国富町

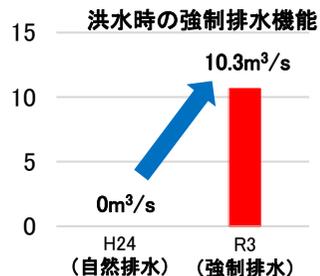


あらした
嵐田地区

- 主要作物
・水稲、ピーマン、キュウリ
- 主な支援施策
・農村地域防災減災事業(H24~R3)
うち3か年緊急対策(H30)

排水機場の新設による強制排水

- 嵐田排水機場の新設により、洪水時に**強制排水(Q=10.3m³/s)**が可能に。



基盤

【整備前】

河川に接する嵐田樋管からの**自然排水のみ**。
台風や集中豪雨時には河川水位の上昇によって自然排水が困難になり、**湛水被害**が発生。



基盤整備

(H24年~R3年)



台風14号(平成17年)の被害状況

排水機場の自動操作による管理負担の軽減

- ポンプの起動・停止及びゲートの開閉等は、水位に応じた**自動操作**が可能。
- **排水機場の日常管理の省力化**に加え、**急激な水位上昇時での操作をサポート。**



施設管理

後継者育成と地域活動

- 湛水被害防止により**安定した生産基盤が維持され、後継者が就農。**
- 後継者が主体となり、小学校での農業体験などの**地域活動**を実施。



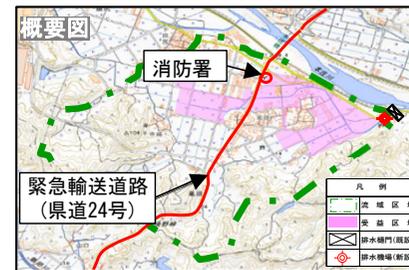
地域の取組

湛水被害の未然防止

- 排水機場での強制排水により、**想定被害額及び想定湛水面積が減少。**
(令和6年台風10号でもハウス等の**湛水被害無し**。)

	想定被害額	想定湛水面積
整備前	24億円	33.3ha
整備後	被害なし	被害なし

- **農業生産基盤の維持、緊急輸送道路や消防署の機能も確保。**



湛水被害が防止されたことで地域の営農が拡大

- 湛水被害防止により、**ハウスでの営農が拡大。**
高収益作物の栽培について、技術力向上研修を実施し、**担い手農家の規模拡大を促進。**